

2017年3月期 第2四半期決算説明会



2016年11月17日

ユニチカ株式会社

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

繊維事業の構造改革や事業ポートフォリオ改革に伴う事業譲渡・子会社の株式譲渡などが影響し、減収。

原燃料価格の好転や高分子事業の成長戦略の進展などにより、増益。

外貨建て資産の為替差損を計上したため、営業外損益はマイナスに影響。

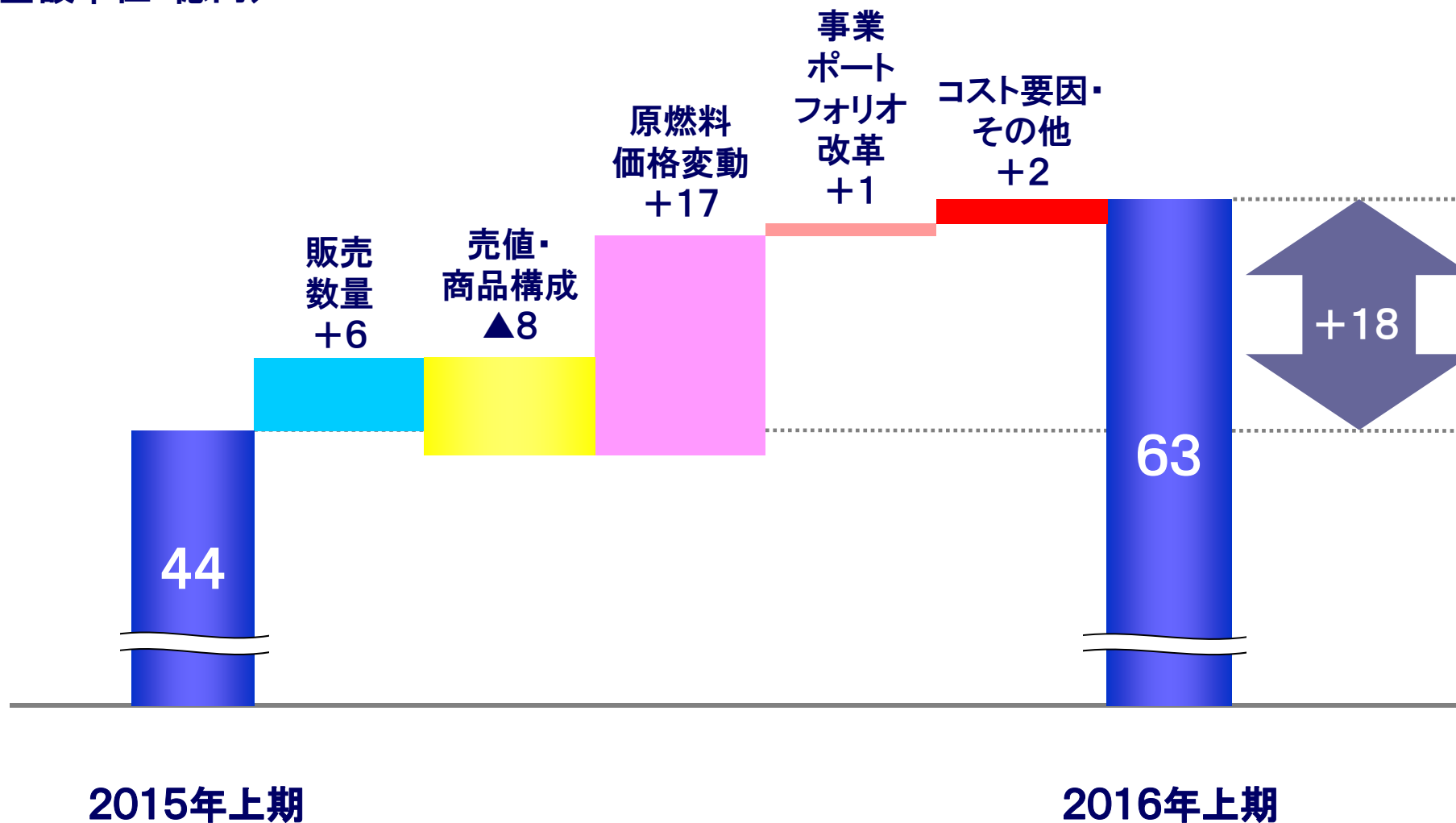
事業ポートフォリオ改革が概ね完了したことにより、特別損失は減少。

連結合計 (金額単位:億円)	15年上期 実績	16年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	733	626	▲107	▲15%
営業利益	44	63	+18	+42%
営業利益率	6.0%	10.0%	(+4.0%)	—
営業外収益	5	5	▲0	—
営業外費用	19	26	+8	—
経常利益	31	41	+11	+35%
特別利益	5	2	▲4	—
特別損失	9	3	▲5	—
税金等調整前四半期純利益	27	40	+13	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17	36	+19	+108%

減価償却費	22	21	▲1	▲6%
設備投資	30	28	▲2	▲7%

営業利益変動要因分析

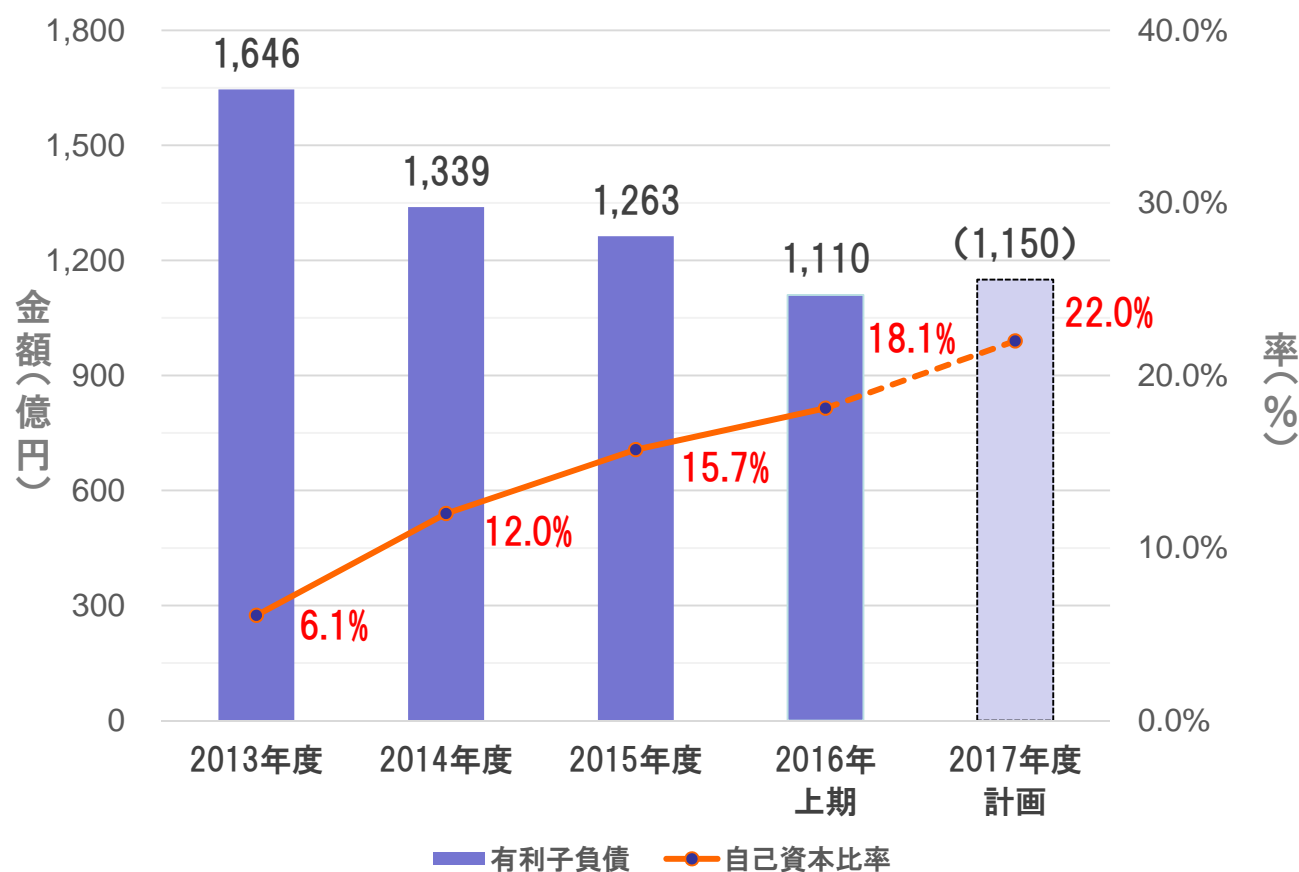
(金額単位:億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2016年3月末	2016年9月末	増減
資産合計	2,200	2,041	▲158
流動資産	1,096	939	▲157
固定資産	1,104	1,102	▲2
負債合計	1,820	1,639	▲181
純資産合計	379	402	+23
株主資本	342	368	+26
その他の包括利益累計額	4	2	▲2
非支配株主持分	33	33	▲1
有利子負債	1,263	1,110	▲153
自己資本比率	15.7%	18.1%	+2.4%

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減

2015年度で残高1,263億円。2016年上期で1,110億円となり、中期計画に対し1年前倒しで実現。

現預金を差し引いたネット有利子負債は800億円を切る水準へ。

■自己資本比率向上

2016年上期は2013年度と比較し12ポイント増加し18.1%。

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

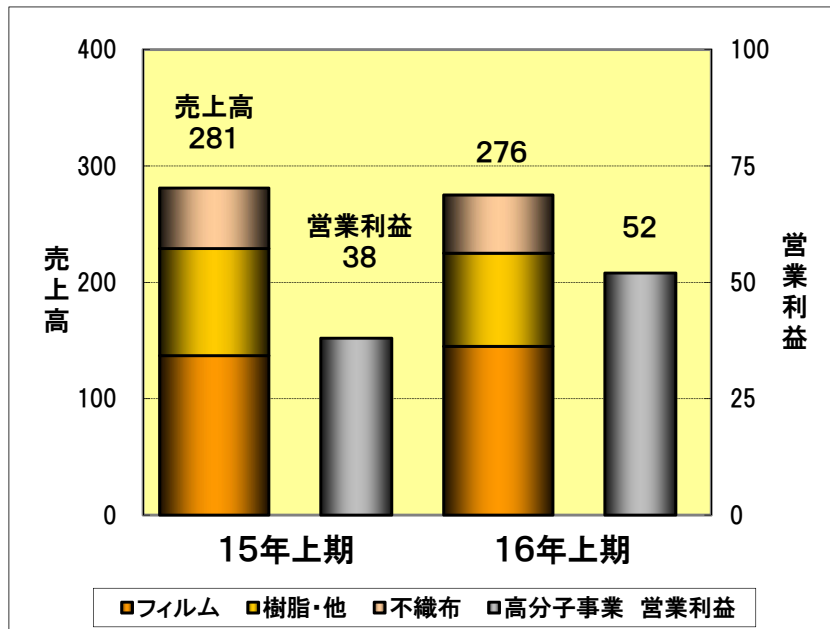
セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	15年上期 実績	16年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	733	626	▲107	▲15%
高分子事業	281	276	▲5	▲2%
機能材事業	56	59	+3	+5%
繊維事業	328	274	▲54	▲16%
その他	68	17	▲51	▲75%
営業利益	44	63	+18	+42%
高分子事業	38	52	+15	+39%
機能材事業	7	6	▲1	▲19%
繊維事業	6	8	+2	+41%
その他	▲6	▲3	+3	—

高分子事業の状況

包装フィルムの好調や原燃料価格の好転により、3事業とも増益

(金額単位:億円)	15年上期	16年上期	増減
高分子事業 売上高	281	276	▲5
フィルム	137	145	+9
樹脂・他	92	80	▲12
不織布	52	50	▲2
高分子事業 営業利益	38	52	+15



□フィルム [増収・増益]

◆ 包装分野

猛暑の影響などにより、国内需要が増加。海外でも、アジア市況の復調とインドネシア子会社の生産能力増強に伴い、販売数量が増加。新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」も収益増加に貢献。

◆ 工業分野

情報端末機器用途など電気・電子機器分野で需要が減少。耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」は、モバイル機器向けを中心に採用が拡大。

□樹脂 [減収・増益]

◆ ナイロン樹脂

販売数量は増加したが、販売価格の見直しにより売上が減少。

◆ 飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」

海外向け太陽電池用途などで好調に推移。

◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

事務機器用途は低調も、情報端末機器用途などで好調に推移。

□不織布 [減収・増益]

◆ ポリエステルスパンボンド

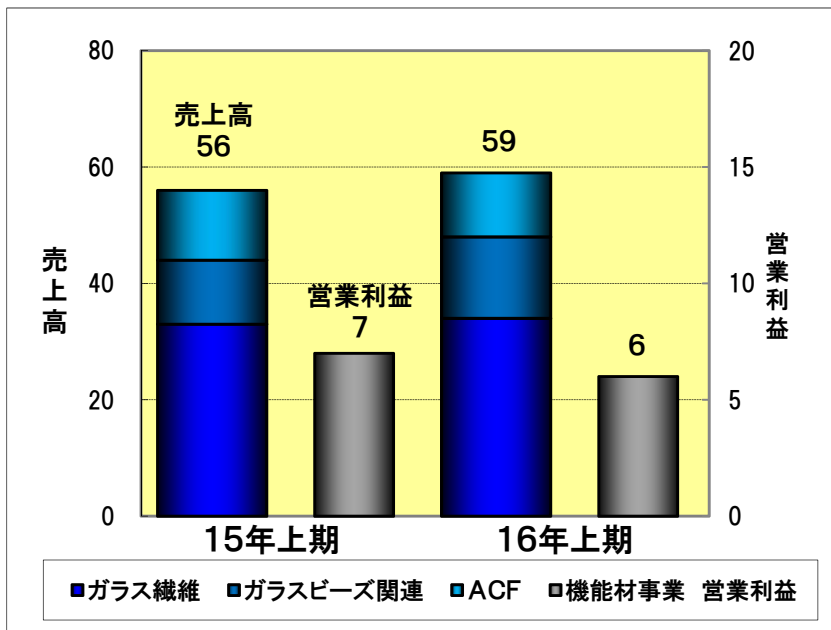
農業用途等で低調に推移したが、インテリアや建築材料用途等で販売数量を伸ばし、収益は増加。

◆ コットンスパンレース

国内では猛暑による制汗シートの需要拡大など生活資材用途で好調に推移。海外向け拡販も進捗。

為替変動も受け売上減少したガラス繊維(ICクロス)がやや苦戦

(金額単位:億円)	15年上期	16年上期	増減
機能材事業 売上高	56	59	+3
ガラス繊維	33	34	+1
ガラスビーズ関連	11	14	+3
ACF	12	11	▲1
機能材事業 営業利益	7	6	▲1



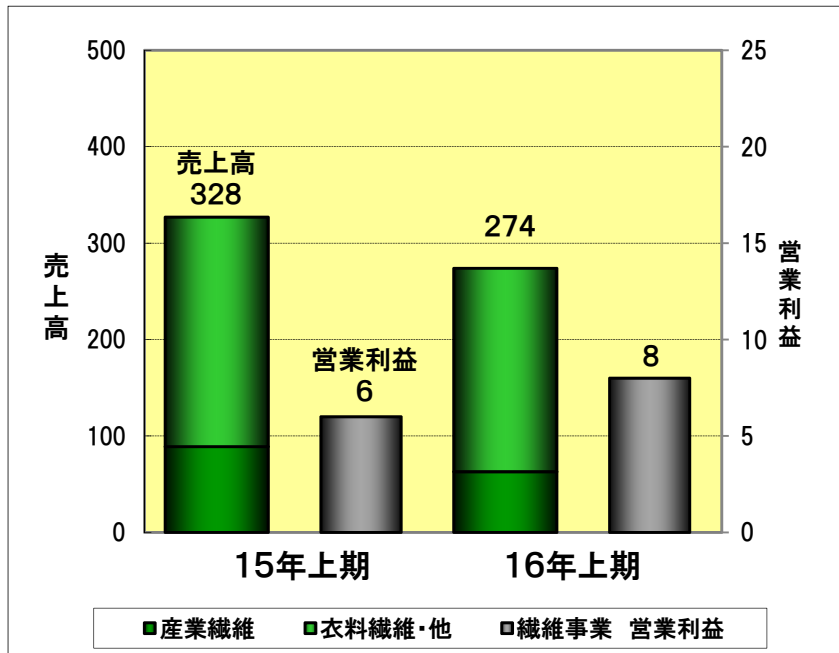
□機能材 [増収・減益]

- ◆ ガラス繊維・産業資材分野
土木用途は低調であったが、建築用途で堅調に推移。
- ◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、情報端末機器用途での需要が伸びず、為替変動もマイナスに影響し、低調に推移。
- ◆ ガラスビーズ
ロードマーキング用途は堅調に推移。工業用途や反射材用途では売上が減少。商品構成の改善や燃料価格の下落により、収益が増加
- ◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途で需要が伸びず。VOC除去分野や工業分野のフィルター用途は、堅調に推移。

繊維事業の状況

産業繊維は、計画通り進捗。衣料繊維は、売上減少するも利益は確保

(金額単位:億円)	15年上期	16年上期	増減
繊維事業 売上高	328	274	▲54
産業繊維	89	63	▲26
衣料繊維・他	238	211	▲27
繊維事業 営業利益	6	8	+2



□ 繊維
[減収・増益]

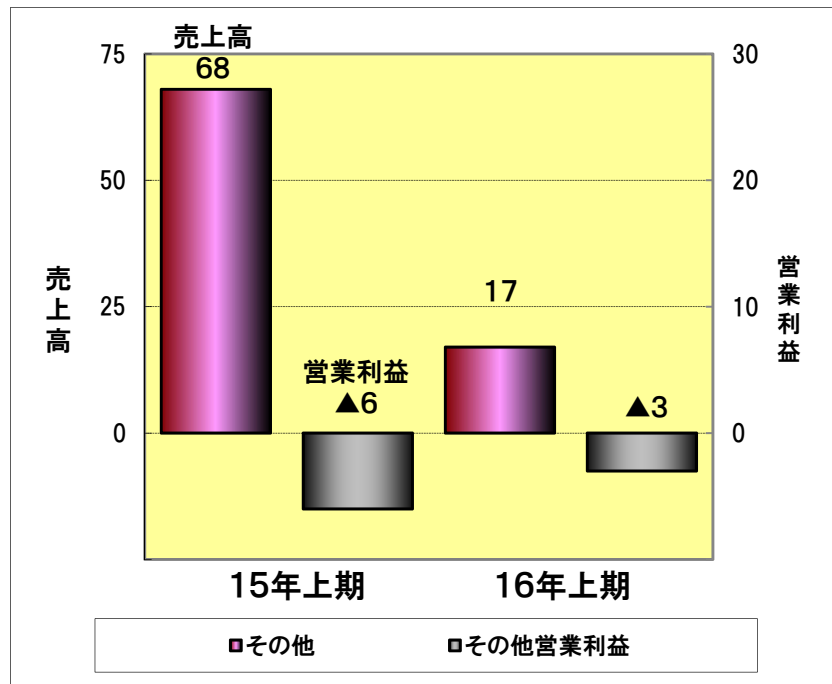
◆ 産業繊維
ポリエステル高強力糸は、複合繊維などの高付加価値品の拡販により、収益が増加。ポリエステル短繊維は、前期までに実施した構造改革による事業縮小に伴い売上が減少したが、計画通りの収益を確保。

◆ 衣料繊維
ユニフォーム分野は、調達コストの低減により、採算が改善。レディス分野は、二次製品の拡販により、増収増益。スポーツや寝装、インナー用途での素材販売、デニムの輸出は低調に推移。事業全体では売上は減少したが、利益は増加。

その他の状況

前年度に実行した事業ポートフォリオ改革の影響により大幅減収

(金額単位:億円)	15年上期	16年上期	増減
その他 売上高	68	17	▲51
その他 営業利益	▲6	▲3	+3



□その他
〔減収・増益〕

◆その他事業

前年度に実行した事業ポートフォリオ改革に伴う事業譲渡、子会社の株式譲渡などの影響により、事業規模が大きく縮小。

◆ユニチカ設備技術(株)

耐火スクリーンの不具合懸念に伴う是正工事は、95%以上進捗。

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

2017年3月期通期業績予想

成長戦略施策に軸足を移し、引き続き収益の拡大を目指す

(金額単位:億円)	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比 増減
売上高	1,465	1,345	▲120
営業利益	105	117	+12
経常利益	68	90	+22
親会社株主に帰属する 当期純利益	69	70	+1

2017年 3月期	上期実績	下期前提
原油 (\$/バレル)	44	50
為替 (円/\$)	106	105

- ◆ 当社グループは、中期経営計画に基づく事業ポートフォリオ改革が2015年度で概ね完了したため、成長戦略施策に軸足を移し、収益の拡大を進めている。
 - ➡ 引き続き、高分子事業を中心とした成長戦略の推進とプロダクトミックスの改善に努め、景気変動の影響を受けにくい高収益企業を目指す。
 - ➡ 高付加価値品の開発を加速することで、国内外での事業の拡大を目指す。

セグメント別業績予想



(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な利益変動要因と下期の見通し
	2016年 3月期実績	2017年 3月期予想	前期比 増減	2016年 3月期実績	2017年 3月期予想	前期比 増減	
高分子事業	563	570	+7	80	96	+16	<p>包装分野は、新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の拡販やエンブレムアジアの新機台を活用し収益拡大。工業分野は、耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」やシリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」などの採用拡大。</p> <p>ナイロン樹脂は、ナノコンメタリックなどの海外拡販を強化。機能性樹脂は、「アローベース」「ゼコット」など成長戦略製品の採用拡大。</p> <p>不織布は、タスコの機台増設に向けて、ポリエステルスパンボンドの海外展開の強化。</p>
機能材事業	119	131	+12	14	12	▲2	<p>ガラス繊維は、建築用途での拡販強化、新商品の開発加速。</p> <p>活性炭繊維は、水栓一体型を中心とした浄水器用途の拡販、中国・台湾に加え欧米も見据えた海外市場への参入。</p>
繊維事業	654	606	▲48	16	16	+0	<p>産業繊維は、複合繊維など高付加価値品の拡販による収益拡大。</p> <p>衣料繊維は、原織開発への注力と共に、スポーツ、レディス分野での二次製品販売の拡大。</p>
その他	128	38	▲90	▲6	▲7	▲1	耐火スクリーン是正対応の完了。
合計	1,465	1,345	▲120	105	117	+12	

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2017年3月期通期業績予想

- ・2017年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア新機台製品の国内展開及び東南アジア市場での拡大		アジア市況の回復と生産能力の増強にともない、販売量は1.4倍に拡大。	○
	新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		ポイル・レトルト食品向けに採用が拡大しており、販売量は2.5倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡大		モバイル機器向けを中心に採用拡大しており、販売量は2.0倍に拡大。	○
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」などの高付加価値アイテムを拡販中。 販売量は1.4倍に拡大。	○

成長戦略

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		国内メーカー向け太陽電池用途の需要が減少。	△
	「ゼコット」の拡販		台湾や中国での電気・電子機器用途で実績化し拡大基調。	○
	高機能性PETの拡販		「ユニレート」導電グレードの市場投入など差別化アイテムを拡販中。販売量は1.2倍に拡大。	○
不織布	タスコの新機台増設に向けてのアジアグローバルシェア拡大		2017年4月稼働(予定)に向け増設工事は順調。海外マーケティングも強化。	(○)

国内シェア優位事業

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

高分子の売上高
が繊維を上回った

その他(売上高構成比 3%)



高分子事業(売上高構成比 44%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド
спанレース

繊維事業(売上高構成比 44%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維
ビニロン繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 9%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。